

A photograph of two women in a garden. The woman on the left is younger, with her hair in a ponytail, wearing a light-colored patterned top and gardening gloves. The woman on the right is older, wearing a blue jacket, a red patterned scarf, a straw hat with a blue band, and gardening gloves. They are both smiling and looking at a small plant in the woman's hand. The background is a lush green garden.

New Way of Life Series No.2

性格や習慣、考え方も異なる
者同士が愛し合うために
どうしたらよいの
でしょうか。

人間関係の秘訣

新しい生き方シリーズ No.2

新しい生き方シリーズ No. 2

人間関係の秘訣

ミニストリー・オブ・ヒーリング

41 章

目次

Contents

人との接触到	1
責任者に対する考慮	2
不正な取り扱いに対する忍耐	5
悪を語らぬこと	16
礼儀	17
小事の重要性	19
自己訓練	20
称賛と奨励	23
間違う人に対する忍耐	25

人との接触に

人生におけるすべての交わりには、自制と忍耐と同情を働かせなければならぬ。わたしたちは、性格、習慣、教育が非常に異なっているため、物事の見方も異なり、また判断も異なる。真理に対する理解や身の処し方に関する考えも、細部にわたっては同じでなく、二人の人がすべての点で同一の経験をするということはない。ある人にとって試練であることも、他の人にとって



てはそうではない。ある人にとっては軽易な仕事も、別の人にはもつと困難でめんどろなことがある。

人間の性質は実に弱く、無知であり、誤解しやすいものであるため、他人を評価する際には、注意深い態度をもつてしななければならない。わたしたちは、自分の行動が、他人の体験にどのような影響を及ぼすかほとんど知らない。自分の言行は、自分ではごく小さいことのように思われても、もし、わたしたちの眼が開かれるならば、善におもむくか、悪に至るかの重大結果は、この自分たちの言行の上にかかっていることがわかるはずである。

責任者に対する考慮

多くの人はほとんど重荷を負ったこともなく、真の苦しみをあまり知らず、他人のために心をくだき、悩むことが少ないので、真に責任を負う者の働きが理解できない。責任が重い父親の心労や苦労は、その子供にわからないように、彼らは責任者の重荷について理解することができない。子供は父親の心配や困惑を不思議に思い、それは不用なことのように見えるが、幾年か経験を経て、自分も責任を負うようになると、父の生涯をふり返り、昔わからなかった事態を了解する。苦しい経験が知識を与えたのである。



多くの責任者の働きが理解されず、その骨折りも、死ぬまで価値が認められないものである。そして、その人の重荷を他の人が取りあげ、かつてその人が遭遇していた困難に会ってみて初めて、どんなにその人が信仰と勇気を試みられたかということを理解できる。かつてはたやすく非難したはずの失敗が、目につかなくなることがよくある。体験は同情を教える。神は人間を責任ある地位に立たせ、失敗があった時にはそれを正し、またはその地位から除く力を持つておられる。わたしたちは、神に属するさばきのわざを、人間が行わないように注意しなければならぬ。

サウルに対するダビデの行動の中には、教訓がある。神の命令によってサウルは、イスラエルの王として油を注がれた。しかし、不従順のために、その国は彼の手から取りあげられると神が言われたが、サウ

ルに対するダビデの行為はなんと柔和で礼儀正しく忍耐に満ちたものであつたらう。ダビデの生命を求めてサウルは荒野にき、ダビデと兵士たちが隠れていた洞穴ほらあなに一人で入ってきた。「ダビデの従者たちは彼に言った、『主があなたに告げて、「わたしはああなたの敵をああなたの手に渡す。あなたは自分の良いと思うことを彼にすることができると言われた日がきたのです。』……ダビデは従者たちに言った、『主が油を注がれたわが君に、わたし

がこの事をするのを主は禁じられる。彼は主が油を注がれた者であるから、彼に敵して、わたしの手をのべるのは良くない』」（サムエル記上 24章 4、6節）。



救い主は、「人をさばくな。自分がさばかれなかったためである。あなたがたがさばくそのさばきで、自分もさばかれ、あなたがたの量るそのはかりで、自分にも量りあたえられるであろう」と、戒められている（マタイによる福音書 7章1、2節）。まもなく生涯の記録が神の前に調べられることを記憶し、「すべて人をさばく者よ。あなたには弁解の余地がない。……他人を……さばくあなたも、同じことを行っているからである」と、キリストが言われたことを覚えていなさい（ローマ人への手紙 2章1節）。

不正な取り扱いに対する忍耐

わたしたちに対する実際上または仮定上の不正行為のため、自分の精神をいらだたせるわけにはいかない。自我は、わたしたちの最も恐

るべき敵であつて、どういふ形の悪も、聖霊に制せられていない人間の情欲に比べると、それほど有害な影響を品性に及ぼさないのである。また勝つことができた他のどんな勝利に比べても、自己に打ち勝つ勝利ほど尊いものはない。

感情をたやすく害してはならない。わたしたちは自分の気持ちや名声を守るために生きているのではなく、人を救うために生きなければならぬ。人を救うことに熱心になれば、相互の間によく起こるわずかな意見の相違に気を留めなくなる。他人が自分のことをどんなに思い、自分に対してどのようなふるまひでも、そのためにキリストと自分との結合、



聖霊との交わりを妨げる必要はない。「悪いことをして打ちたたかれ、それを忍んだとしても、なんの手柄になるのか。しかし善を行って苦しみを受け、しかもそれを耐え忍んでいるとすれば、これこそ神にのみせられることである」(ペテロの第一の手紙 2章20節)。

復讐ふくしゅうをしてはならない。できる限り、あらゆる誤解の原因を取り除き、悪い外見を避けなさい。原則を犠牲にしないかぎり、全力を尽くして人と融和しなさい。「祭壇に供え物をささげようとする場合、兄弟が自分に対して何かうらみをいだいていることを、そこで思いだしたなら、その供え物を祭壇の前に残しておき、まず行って、その兄弟と和解し、それから帰ってきて、供え物をささげることにしなさい」(マタイによる福音書 5章23、24節)。

短気な言葉をかけられても、決して同じ精神で答えてはならない。「柔

らかい答は憤りをとどめ」ることを覚えなさい（箴言 15章1節）。沈黙には驚くほどの力がある。おこっている人に答える言葉が、ますますその人をおこらせることがあるが、やさしい忍耐の精神をもって沈黙を守れば、たちまち消えてしまう。

鋭い言葉を浴びせかけられ、口やかましい小言を言われた時、心にとだ神の言葉を考えなさい。頭と心に神の約束を蓄え、虐待され、誤った非難を受けた時、おこった答えをせず、その尊い約束を心の中で自分にくり返して言いなさい。

「悪に負けてはいけない。かえって、善をもって悪に勝ちなさい」（ローマ人への手紙 12章21節）。

「あなたの道を主にゆだねよ。主に信頼せよ、主はそれをなしとげ、

あなたの義を光のように明らかにし、あなたの正しいことを真昼のように明らかにされる」（詩篇 37篇5、6節）。

「おおいかぶされたもので、現われてこないものはなく、隠れているもので、知られてこないものはない」（ルカによる福音書 12章2節）。「人々にわれらの頭の上を乗り越えさせられた。われらは火の中、水の中を通った。しかしあなたはわれらを広い所に導き出された」（詩篇 66篇12節）。

わたしたちはイエスに同情を求めないで、人間に同情を求め、それに支えられようとする傾向がある。神は常に憐れみ深く忠実な方であり、わたしたちが信頼を寄せている人から、たびたび失望させられることをお許しになるが、それはわたしたちが人間にたより、肉を助けとすることの愚かさを学ぶためである。完全に、身を低くし、自我を

捨てて神に信頼しよう。神は、わたしたちが心の底に感じながらも、表現できない悲しみを知っておられる。すべてが暗黒で筆舌に尽くしがたいと思われる時、「わたしのしていることは今あなたにはわからないが、あとでわかるようになるだろう」とのキリストの言葉を思い起こしなさい（ヨハネによる福音書 13章7節）。

ヨセフとダニエルの歴史を研究しなさい。彼らを害しようとした人々の謀略を神は妨げられなかったが、かえってこうした策略が、試練や災難の中にもその信仰と忠誠を守った神の僕の益となるように導かれた。



この地上に居る以上、わたしたちは敵対する勢力に会うのである。自分の気性を試す試練にあうが、正しい精神でこれに応ずることによつて、クリスチャンの美德が養成される。もしキリストがわたしたちのうちに宿っておられるならば、わたしたちは煩悶や、いらだちにあつても、忍耐強く、親切で寛容で快活である。

日々に、また年毎にわたしたちは、己に勝利し、りっぱな英雄になつていくのである。これがわたしたちに定められた仕事であるが、イエスの助けと堅い決心、不動の決意、不断の注意、そして絶えず祈ることなどが無いなら、完成できない。それぞれに戦わなければならぬ自分の戦いがある。わたしたちが神と協力しなければ、神でさえも、わたしたちの品性をりっぱにし、生涯を有用なものとなさることはできない。戦いをこばむ者は、勝利する力と喜びを失う。

わたしたちは、自分の試練、苦難、不幸、悲嘆を記録しておく必要はない。これはみな書にしるされて天に保管されている。不愉快なことを数えあげているうちに、楽しい思い出が多く忘れられていく。たとえば、絶えずわたしたちを囲んでいる神の深い憐れみや、天の使も驚くほどの愛、すなわち神がわたしたちのためにみ子を死にわたされたことを忘れてしまう。キリストのために働く者として、人よりも心労や試練が多いと感じる時、こうした重荷を拒否する人々にはわからない平安があることを覚えなさい。キリストの働きには慰めと喜びがある。キリストと共に生きる時、そこには失敗がないことを世に証明しなさい。



たとえ心が軽く愉快でなくても、その気分を外に表してはならない。他人の生活に陰を与えぬようにしなさい。冷たい、暗い宗教は、決して人をキリストに引き付けない。かえってキリストから追い払い、迷う者の足をとらえるために、サタンがひろげている網の中へ追い込んでしまう。自分の失望について考えないで、キリストの名によって要求することが出来る力を考えなさい。目に見えないものを想像力で把握し、あなたを愛しておられる神の大きな愛の証拠に思いを向けなさい。信仰は、試練に耐え、誘惑に抵抗し、失望に会っても、それに耐えることができる。イエスはわたしたちの仲保者として生きておられる。その執り成しによって得られるものは、すべてわたしたちのものである。

ただキリストのために生きる者だけを、キリストは尊重なさるとあ

あなたは考えないだろうか。流刑にあった愛弟子ヨハネのように、キリストのために、困難な、つらい境遇にある人を、キリストは訪れなさると思えないだろうか。神は真の働き人が一人でも、勝ち目のない敵と戦って負けるままに放置されたりはなさらない。

キリストと共に、神に隠れ家を持つ人をすべて尊い宝石のように守り、こうした人の一人一人について主は、「わたしはあなたを立て、あなたを印章のようにする。わたしはあなたを選んだからである」と言われている（ハガイ書 2章23節）。

だから神の約束について語り、イエスは喜んで祝福をお与えになる方だということをご告げなさい。神は、ほんの一瞬間でも、わたしたちのことをお忘れにならない。不快な境遇に会っても彼の愛に信頼し、安んじ、神に隠れ家を持つならば、神はおられるのであるとの感が深

まり、おだやかな喜びを起こさせる。キリストはご自分のことについて、「わたしは自分からは何もせず、ただ父が教えてくださったままを話していたことが、わかつてくるであろう。わたしをつかわされたかたは、わたしと一緒におられる。わたしは、いつも神のみこころにかなうことをしているから、わたしをひとり置きざりになさることはない」と言われた（ヨハネによる福音書 8章28、29節）。

神の臨在がキリストを囲んでいたため、この世の祝福のために無限の愛によって許されたこと以外には、どんなこともキリストには起こらなかった。ここにキリストの慰めの源があり、それがまた、わたしたちの慰めである。キリストの霊で満たされている者は、キリストのうちに宿る者であり、その人に起こることはすべて、その臨在をもって彼をかこむ救い主から来るのである。主の許可なしには何ものも彼

に触れることはできない。すべての苦難、悲哀、誘惑、試練、あらゆる悲しみ、不幸、また迫害、貧困、いわば一切のものが、わたしたちの益となつて共に働くのである。あらゆる体験や境遇がわたしたちを益するために用いられる神の働き人である。

悪を語らぬこと

わたしたちに対する神の深い忍耐がわかれば、他人をさばいたり、非難することはない。キリストがまだ地上におられた時に、キリストを知つてから、一言でも非難の声や、悪口、短気な言葉をキリストの口から聞いたとすれば、どんなに驚いたことであつたらう。



キリストを愛する人は、その品性によって彼を代表しなければならぬことを決して忘れないようにしよう。

「兄弟の愛をもって互にいつくしみ、進んで互に尊敬し合いなさい」
(ローマ人への手紙 12章10節)。

「悪をもって悪に報いず、悪口をもって悪口に報いず、かえって、祝福をもって報いなさい。あなたがたが召されたのは、祝福を受け継ぐためなのである」(ペテロの第一の手紙 3章9節)。

礼 儀

主イエスは、わたしたちが各自の権利を認めるように要求なさって

いる。人間の社会的権利やクリスチャンとしての権利を考え、神の息子、娘として、礼儀と思いやりをもつてすべての人を取り扱うべきである。

キリスト教は人間を紳士にする。キリストは迫害者に対してさえ礼儀正しくされた。そして彼の真の弟子たちも、それと同じ精神を表すのである。統治者の前に連れ出された時のパウロを見るがよい。アグリッパの前で語った彼の言葉は、人を納得させる雄弁の良い例であると同時に、真の礼儀の模範である。福音は、世にならう形式的な礼儀をすすめはしないが、真に親切な、心からわきあふれる礼儀を奨励する。

外見的な礼儀作法をどんなに用意周到に習得しても、それらは、焦燥、荒々しい批評、聞き苦しい言葉などを、すべてなくすのに十分ではない。自我が最高の地位を占めている間は、真の礼儀は決してあらわれない。真の愛が心に宿らなければならぬ。純粋なクリスチャンは、主に對

する深い愛に基づいて行動する。キリストに対する愛の根源から、兄弟に対する無我の関心が芽生える。愛はその所有者に優雅、礼節を与え、態度を美しくする。また顔を輝かせ、声を和らげ、その人全体を上品、高尚にする。

小事の重要性

人生は、大きな犠牲やりっぱな功績によつてではなく、おもに小さいことから成り立っている。全く注目する価値がないように見える小さいことによつて、わたしたちの生涯に大きな利害が及ぼされることばかりが多い。ちよつとした小さな事に試みをうけ、その試練に負けたため、習慣が形成され、品性がゆがめられ、さらに大きな試練がきた時、それに対する準備ができていない。日常生活における試練の

中で原則を実行しなければ、最も危険で困難な立場に立った時、堅く忠実に立つ力を自分のものとすることができない。

自己訓練

わたしたちは決して一人ではない。イエスを選ぼうと選ぶまいと同伴者がある。どこにいても、何をしていても、神はそこにおられることを自覚なさい。言うこと、なすこと、何一つとして神の目を逃れることはできない。あなたの一つ一つの言葉や行動に対する証人、すなわち、聖にして、罪を憎まれる神がおられるのである。語る前、行動する前に、いつもこのことを考えなさい。あなたはクリスチャンとして王の家族の一員であり、天の王の子供である。「あなたがたに対して唱えられた尊いみ名」をけがすような言葉を発したり、行いをしたり

してはならない（ヤコブの手紙 2章7節）。

人性と神性を兼ね備えておられるキリストの品性をよく学び、「もしキリストがわたしの立場におられたらどうなさるか」と、常に尋ねなさい。これがわたしたちの仕事を量る基準でなければならぬ。正しいことをしようとする決意を謀略によって弱めたり、良心を汚したりする人との交わりに、不必要に入ってはならない。少しでも悪く見えることは、道路上であれ、家庭であれ、他人にしてはならない。キリストがご自分の血潮をもってあがなわれた生命を向上させ、美化し、高尚にするために、毎日何かなさい。



常に原則によって行動し、決して衝動にかられてふるまってはならない。生来持つている性急な性質を柔和と謙遜をもって和らげ、軽薄な、くだらない事にふけてはならない。低級な「しゃれ」など、一言も口から飛ばすべきでなく、思想も放縦に流れるままに放任してはならない。それは制御し、とりこにしてキリストに従わせなければならぬ。聖なることを思いなさい。そうすれば、キリストの恵みによって純潔となり、真実なものとなる。

わたしたちは、純潔な思想がもたらす高尚な力を絶えず念頭におかなければならない。どんな人でも安全な道はただ一つ、正しく考えることである。「その心に思うごとく、その人となりもまたしかればなり」（箴言 23章7節・文語訳）。自制力は働かせることによって強くなり、最初はむずかしく思われても、絶えずくり返しているうちに容易とな

り、ついに正しい思考や行動が習慣となる。意志さえあれば、つまりぬ劣等なものはずべて避け、高い標準に達し、人に尊敬され神に愛されることができる。

称賛と奨励

人のことをよく言う習慣を養成しなさい。交わっている友人のよい特質に留意し、その過失や欠点はできるかぎり見ないようにし、だれかの言行を悪く言いたくなったら、その人の生活や品性のどこかをほめなさい。感謝の心を養い、わたしたちのためにキリストを与え、死にわたされた神の驚くばかりの愛について神を賛美なさい。人に対する不平について考えても決して得るところはない。神は、わたしたちが賛美によって鼓舞されるように、神の恵みと比類のない愛について

考えよと勧めておられる。

熱心な働き人は、他人の欠陥に留意する余裕がない。わたしたちは、他人のあやまちや短所のようなかすを食べて生きているわけにはいかない。悪口には二重の災があつて、聞く者よりも語る者に害を及ぼすことが大きい。不和や争いの種をまき散らす人は、自分の心にその恐ろしい実を刈りとる。

他人の中に悪をさがす行為そのものが、そうする人の中に悪を育てあげる。他人の短所に心をとめることによつて、それと同じ姿に変化していく。しかし、イエスをながめ、その愛と完全な品性について語る時、わたしたちもそのみ形になり、イエスがわたしたちの前に示された高い理想を思い、考えることによつて純潔な聖なる雰囲気にまで向上し、神のみ前に至ることができる。こうした境地に住む時、わた

したちから光がでて、接するあらゆる人に反映して行くのである。

他人を非難し、とがめるかわりにこう言いなさい。「わたしは自分の救いを全うしなければなりません。わたしは自分の魂を救おうと望んでおられる神と協力するのであれば、一所懸命に自分を見守らなければなりません。わたしの生活からすべての悪を捨て、すべての欠陥に勝たなければなりません。キリストのうちにある新しい人間にならなければならぬのです。そうすれば、悪と戦っている人を弱めることをせず、励ましの言葉をかけて彼らを強くすることができます。」わたしたちはお互



いにあまりに冷淡すぎる。共労者が助けと励ましを要していることをよく忘れる。その人に対して関心を持ち、同情を寄せていることを確信させるように注意を払い、祈りによって助け、祈っていることを知らせなさい。

間違う人に対する忍耐

キリストのために働く者であると称している人が、全部、真の弟子であるとはかぎらない。キリストの名を名のる者、キリストの働き人とされている人の中にさえも、品性がキリストを代表していない人がある。彼らはキリストの道義によって支配されず、クリスチャン的経験の浅い同労者を困らせ、失望させることがよくある。しかし、だれも迷わされる必要はない。キリストは完全な模範をお示しになり、ご

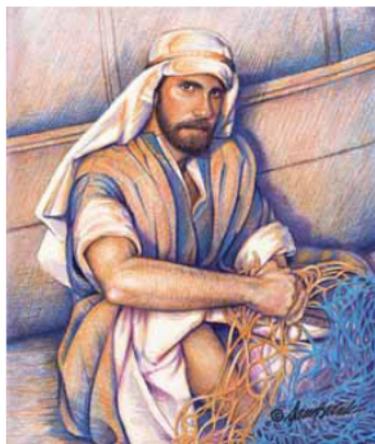
自分に従うように命じておられる。

最後まで、よい麦の間には毒麦が混じっているのである。その家の僕が主人の名誉を熱心に思うあまり、毒麦を抜きとる許可を求めた時、主人は、「いや、毒麦を集めようとして、麦も一緒に抜くかも知れない。収穫まで、両方とも育つままにしておけ」と言った（マタイ 13章29、30節）。

神は、憐れみと忍耐に富んでおられるから、強情な人、不真実な者をも忍耐強く忍ばれる。選ばれたキリストの使徒の中には、裏切り者のユダがいた。今日、働き人の中に偽り者がいても、それに驚き、失望すべきではない。人の心を読まれるキリストが、彼が当然裏切り者になることがわかっていてさえ、耐えられたのであれば、わたしたちはどれほどの忍耐をもって、間違っている人々を忍ぶべきであろうか。

また最も欠点が多いように見える人でも、全部がユダのようではなく、性急な、あわて者で、自信の強かったペテロは、ユダよりどれほど悪く思われたか知れないし、救い主に譴責された数も、はるかに多いくらいであった。しかしペテロの生涯は、なんとと言う奉仕と犠牲の生涯であつたろう。彼は神の恵みの力について、なんと言うりっぱな証しをたてたことであろう。わたしたちもできるかぎり、地上においてイエスが弟子たちと共に歩み、共に語られていた時、彼らに対してなされたように、他の人々にしなければならぬ。

まず第一に、共労者の中で自分を伝道者と考えなさい。一人の魂を



キリストに導くには、非常に多くの時間と働きのいることがよくある。人間の魂が罪から正義にたち帰った時、み使の前には大きな喜びがある。こうした魂を見守っている奉仕の霊が、クリスチャンと称する一部の人々によって、その魂が冷淡に取り扱われるのを見て喜ぶと、あなたは思われるであろうか。人間同志がよくやるような相手の取り扱いは、キリストがわたしたちになさったのであれば、わたしたちのうちの、一体何人が救われたであろう。

人間は、人の心の中を読みとることができない者であることを記憶しなさい。あなたには間違っているように見える行動も、その動機はわからないのである。正しい教育を受けなかった者も多くおり、品性はゆがみ、頑固でひねくれている、どう見ても曲っているようにみえるが、キリストの恵みは彼らを変化させることができる。「わたしはあ

あなたに失望した。わたしはあなたを助けようと努力はしません」と言つて、振り捨てたり、追いやつて失望させ、絶望に落し入れてはならない。おこつて軽率に口に出すちよつとした言葉、わたしたちにはそう言うのももつともだと思えるような言葉が、その人たちの心を、わたしたちに結びつけたはずの感化のきずなを断ち切るかもわからない。

矛盾のない生活、忍耐強さ、挑発されても腹を立てない精神は、いつも明確な証しであり、最も厳肅に人々に呼びかける声である。他人に与えられなかつた機会や特権が与えられていたならば、そのことを考慮して、常に賢明な、注意深い、そして優しい教師となりなさい。

封蝟ふうろうの上に明瞭な、強い印を押すためには、決して乱暴に大急ぎで押さず、注意深く印を蝟ろうの上に置き、固まるまで静かに動かぬように押しつける。人間の心を取り扱うのもこれと同じ方法である。キリス

ト者の感化を継続することは、その力の秘訣ひけつであり、それは、キリストの品性を不断にあらわすかどうかによるものである。間違っている人には自分の体験を語って助け、自分がひどく失敗した時、共労者の忍耐親切、また助力が、どれほど自分に勇氣と希望を与えたかを示さない。

矛盾した不合理、無価値なものに対してとった親切な思慮深い行為が、どんな感化を及ぼしたかは、さばきの日までわからない。わたしたちが恩知らずや聖なる信頼を裏切る者にあうと、軽蔑した気持ちや義憤をあらわしたくなる。そうした人は、それを待ちかまえていてそれに対抗する準備をしている。しかし思いやりのある忍耐をもって接する時、彼らを驚かせ、往々、彼らの心の中の良い精神を呼び起こし、さらに高尚な生活への希望を起こさせることがある。

「兄弟たちよ。もしもある人が罪過に陥っていることがわかったなら、霊の人であるあなたがたは、柔和な心をもって、その人を正しなさい。それと同時に、もしか自分自身も誘惑に陥ることがありはしないかと、反省しなさい。互に重荷を負い合いなさい。そうすれば、あなたがたはキリストの律法を全うするであろう」（ガラテヤ人への手紙 6章1、2節）。

神の子と自称している者はすべて、伝道者として、いろいろな精神を持つ人たちとも交わるのであるということを考えておく必要がある。高尚な人、粗野な人、謙遜な人、高慢な人、宗教的な人、懐疑的な人、教育がある人、無知な人、金持ち、貧しい人がいる。こうし



た種々雑多な人を、一様に取り扱うことはできない。しかしすべての者が親切と同情を必要としている。相互に交わることによってわたしたちの頭脳はみがかれ、高尚にならなければならない。人間は相互に依存しているものであり、人類家族のきずなによって密接に結び合わされている。

主人、僕、友だちの区別なく、たより合うのは神の定めである。一人の弱さを補ってみなが強くなるまで互に助けを求めよと、神は命じておられる。

キリスト教が世界と接するのは社交的關係を通じてである。神の光を受けたすべての男女は、よりよい道を知らない人が歩んでいる暗い道に、光を放たなければならぬ。キリストの御霊によって清められた社交の力は、救い主に人を導くのに利用されなければならない。キ

リストは、清い、美しい、大切な宝として、一人で楽しむために心の中に秘めておくべきものではない。キリストを心のうちに宿し、泉のように、永遠の生命にまでそれをふきあふれさせ、接するすべての人を生きかえらすようであればならない。



神との交わりを深めたい方のために...

“ 神との交わり ”



A5版 161頁
500円

キリストとつながることがわれわれの命の源である。どのように祈り、どのように神と交わるか？ 祈りについての質問&答えを聖句と証の書から知る。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com



“スタディバイブル”



口語訳
解説付き聖書
各 10,000 円

標準型（幅 153mm、高さ 220mm、厚さ 38mm）
余白付大型（幅 165mm、高さ 235mm、厚さ 38mm）

難漢字ふりがな付き。上質の合成皮革。E. G. ホワイトの注解、脚注、引照付き、地図、チャート、金のりんご、聖書語句索引、口語訳聖書の標準ページを左右余白に付記。

お問い合わせ、お申込みは下記の連絡先まで

サンライズ ミニストリー

〒905-0428 沖縄県国頭郡今帰仁村字今泊1471

TEL(0980)56-2783 FAX(0980)56-2881

contact@srministry.com

www.srministry.com